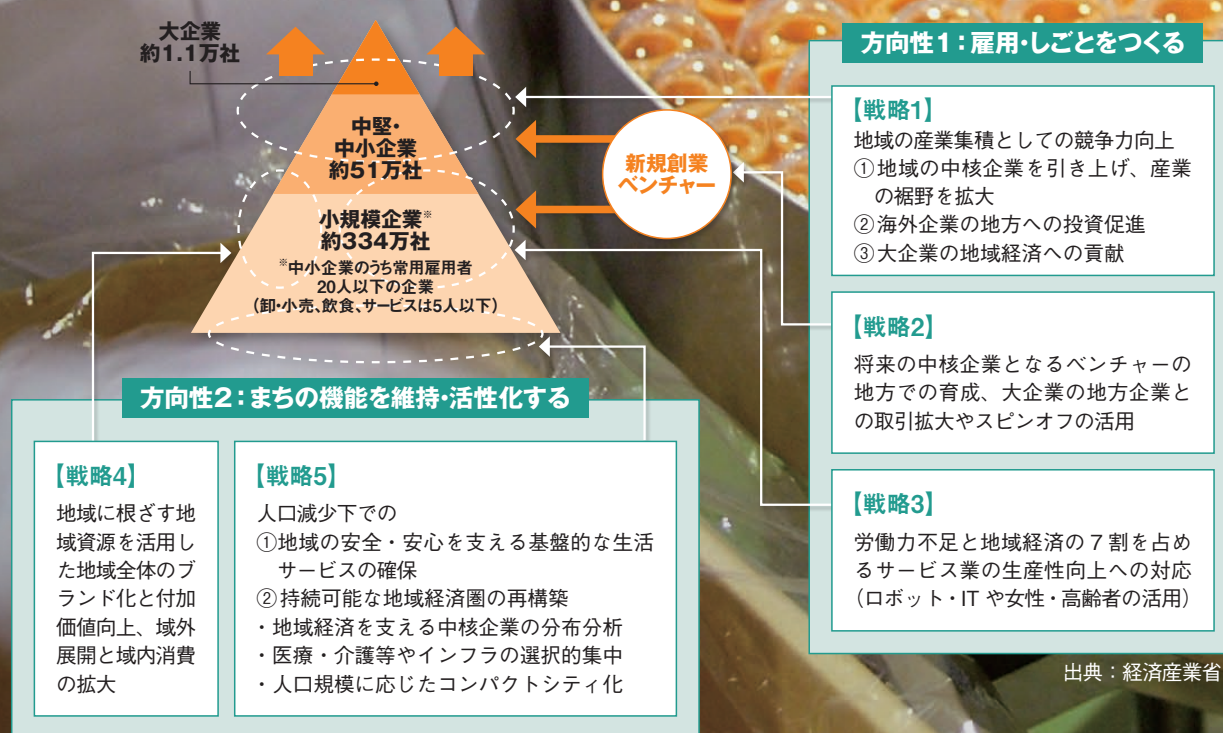


人を呼び込むまち

企業誘致がもたらす、
地域活性と雇用

二〇一三年の人口動態を見ると、東京圏では一〇万人の転入超過となっており、地方の一〇代後半から二〇代の若者が東京に流入している実態が明らかになった。事態を是正するには、いかにして地方に「しごと」を創出するかが大きな課題になる。地域特性を最大限に活かした岡山市の企業誘致の可能性を探る。

人口減少下での地域経済再生、5つの戦略



昨年、政府によって示された地方創生の長期戦略には、「地方における雇用の創出」がその基本目標の一項目に掲げられている。国は地方において若者の正規雇用労働者の割合を向上させ、合わせて女性の就業率を促進することで、2020年までの5年間で30万人の雇用を生み出すとしている。



なぜ、企業誘致が必要なのか

わが国における昨年12月の完全失業率は3.4%で、17年4カ月ぶりの低水準となった。しかし、首都圏と地方の格差は明らかで、有効求人倍率で見ると最高の東京都は1.6倍で最低ランクの沖縄県他の2倍に達している。地域別の経済格差と失業率は比例するものではないが、「しごと」の場と機会を生み出すことが雇用の安定、地方創生に大きく寄与することは明白だ。東日本大震災以降、事業継続性、サプライチェーンの確保を目的として、製造拠点を地方に分散させる企業が相次いだ。円安の影響により海外に置かれた製造工場を国内回帰させる事例もある。視界を広げ、価値観を新たにする。地域の魅力を検証、発掘する。その先に、地方都市に「しごと」を創出するヒントがみえてくる。

Data 2

自治体の課題解決策は？

！ 企業誘致と需要喚起の施策で、地方創生の推進を模索

自治体が認識する課題は全体として「人口減少」と「少子高齢化」が突出。「商店街・繁華街の衰退」は市区町村で大きな問題となっており、対応策として「観光客の誘致」「商店街活性化」など需要を喚起する施策を模索している。「企業誘致」はより大きな行政力を持つ都道府県が取組みの先鋒に立つ。

図1 地域が抱える課題(自治体)

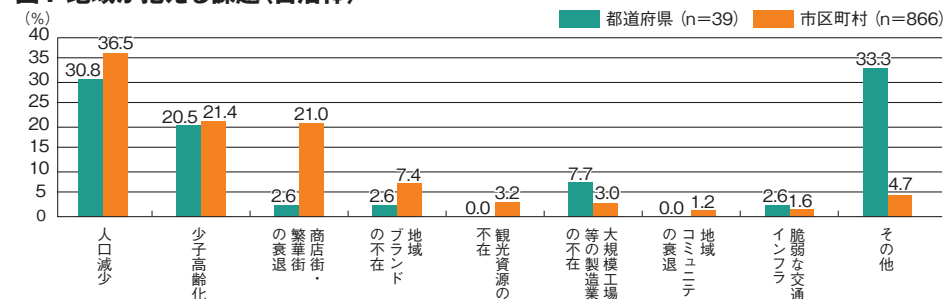
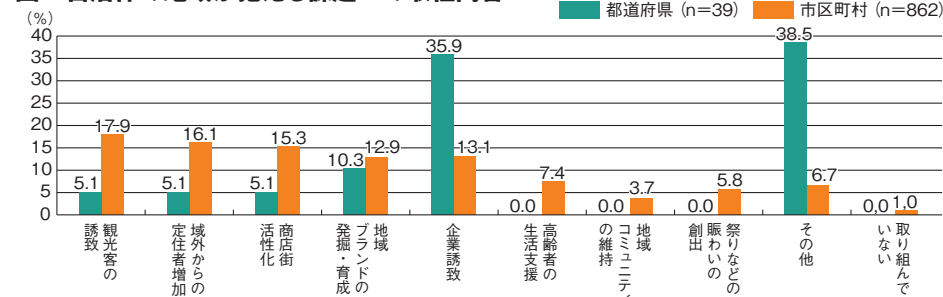


図2 自治体の地域が抱える課題への取組内容



資料：中小企業庁委託「自治体の中小企業支援の実態に関する調査」（2013年11月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株）

(注) 1. 図1は自治体の抱える課題について、図2は地域が抱える課題に対して重点的に取り組んでいる対策について、1位から3位を回答してもらった中で、1位に選択されたものを集計している。

2. 図1の都道府県の「その他」には、「震災からの産業復興」、「内外経済環境の変化」、「製造品出荷額の減少」、「県内就業率が低い、県外での消費が多い」、「ものづくり産業の空洞化」、「県民所得低迷」等を含み、図2の都道府県のその他には、「雇用の創出」、「産業振興」、「経営と金融の一体的総合的支援」、「中小企業の振興」等を含む。

出典：中小企業庁

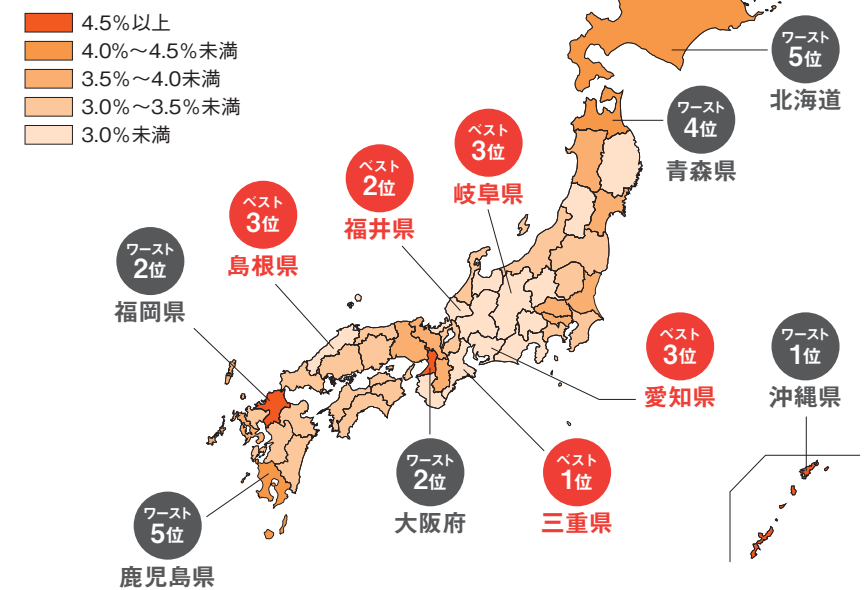
Data 1

都道府県別完全失業率

！ 経済格差、地域性などが重層的に影響する地域別失業率

全国の都道府県別完全失業率(モデル推計値)を見ると九州、関西、関東、北海道で高いことがわかる。工業都市の大阪は製造業の衰退が長く尾を引き、沖縄県では本土との経済格差もさることながら、大都市圏からのUターン者が多いという状況が影響しているという観測もある。

2014年度都道府県別完全失業率(モデル推計値)



総務省統計局「労働力調査(基本集計) 都道府県別結果」を基に作成

岡山市

交通・自然環境に恵まれた、
中四国の拠点地

先進自治体



中国四国地方の真ん中に位置する岡山市。桃太郎伝説の里、マスカットや桃の名産地として全国に名をはせるこの都市が、積極的な企業誘致で注目を集めている。

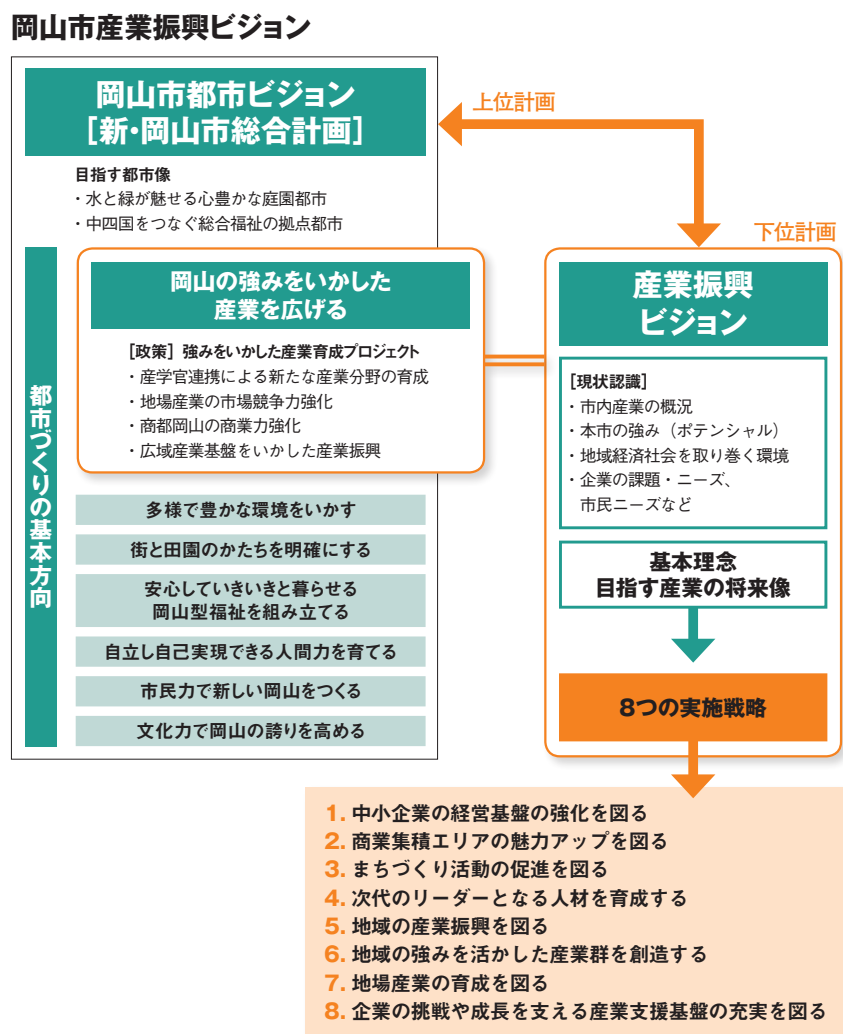


岡山市は、昭和四十七年の山陽新幹線の開通により一躍脚光を浴び、以後、中四国エリアの政治経済、文化を担う中核都市として発展を遂げた。平成十九年に「岡山市都市ビジョン」を策定する。平成二十一年に全国で一八番目の政令指定都市に移した人口七〇万の大都市は、平成二十三年に「岡

山の強みをいかした産業を広げる」をテーマとした「岡山市産業振興・ビジョン」を策定。多様な産業振興施策を展開してきた岡山市に、その成果が着実に現れてきた。

企業誘致に挑む、その最大の武

**中四国の中軸、岡山市の
武器は交通機能と支援体制**



器はやはり広域交通の利便性だ。原材料の供給、製品の輸送など物流、人流を支える交通インフラは企業経営の要だ。岡山市は中四国において東西南北の中央に広がり、高度な交通機能を有している。東海道・山陽新幹線で東京、大阪、九州圏とつながり、瀬戸大橋で四国と結節、山陽、岡山の両自動車道は中四国の物流動脈だ。さらに東京、札幌、沖縄、そして中国、韓国に開かれた空の玄関口、岡山空港がある。岡山市経済局の佐古和之企業立地推進担当課長にお話を伺った。「新幹線は全て岡山に停車します。しかも、まさに街の真ん中に駅がある。ここから岡山空港まで車で二十五分です。大都市圏の企業に対してこの交通便利性は最大のアピールポイントですね」。

しかし、こうした立地条件の優位性だけではライバルに太刀打ちできない。そこで力点を置いたのが立地支援補助制度だ。「改めて市の歴史を紐解いてみると、産業振興の先駆けとなったのが昭和二十八年に制定された『工場設置



岡山県の東西をつなぐ山陽自動車道は、幅広い範囲の陸上輸送に対応している。(写真：中原一隆)

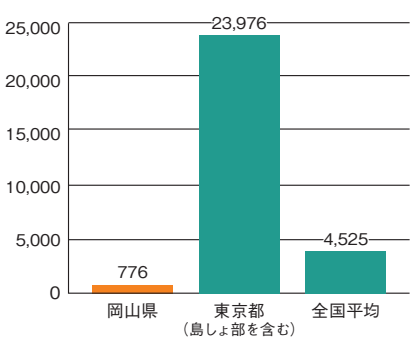


8本の路線が乗り入れている岡山駅は、一大ターミナルとして多くの人に利用されている。

岡山市内企業集積マップ



過去50年間(1964-2013)の地震回数(震度1以上)



企業が誘致には交通、道路、居住性といった高次な都市機能も必要不可欠だ。岡山市の都市デザインを担う都市整備局でお話を聞いた。「中四国のクロスポイントとして高速道路などの広域交通が整備されており、内、中、外の三環状道路や幹線道路を国、県と連携しながら整備を進めています。中心部への車の流入を分散し、渋滞緩和を進めている。岡山では車への依存度が高いため、そうした意味で道路整備は大きなテーマです」と話すのは長代利男都市企画総務課長だ。企業誘致の視点からも、整備を急ぐ必要があると説明する。さらに、中心市街地の賑わいの

独自の都市計画と交通戦略で賑わいのある岡山を創出

が足りないとお尻を叩かれているが、と笑いながら話してくれた。交通の結節点であり支援体制、温暖な気候と震度2が大きな話題になるほど地震も少ない岡山市。そのまちの魅力を広く知らしめることが使命と、意欲を見せている。



岡山市は郊外への工場誘致と並行して、市街地では本社、広域的営業拠点などの立地を積極的に促している。



岡山市経済局
産業振興・雇用推進課
企業立地推進室
企業立地推進担当課長
佐古 和之
Kazuyuki Sako

本社移転などを後押しする国の支援制度は、企業誘致において重要な要素になる。しかし、それだけに依存しては周辺の自治体と条件は同様で差別化が難しく、「岡山」が選ばれる決定打にはなり得ない。地方創生は地方の主導が本来の姿だ。そこで市は独自に複数の補助制度を創出した。大規模な土地利用が必要となる工場や研究所、また、市街地に賑わいをもたらすコルセンターや営業所、そして本社、中四国支店といった広域営業を目的とした事業所など、目的や条件に沿って補助金、奨励金を交付する多面的な支援体制を敷いた。佐古課長はその効果についてこう説明する。「効率化を目的として営業拠点を集約しようとする企業ニーズが高まっています。例えば、あるプラスチック容器のメーカーさんは広島と高松に分散

工場、研究所等への立地支援

岡山市企業立地促進奨励金

対象事業	補助内容
本市において、先端技術工場、一般製造工場又は研究所等を立地して事業を行う事業 【先端技術工場】 租税特別措置法(昭和32年法律第26号)第44条の2第1項に規定する高度技術工業として大蔵省が行った告示(昭和59年3月31日大蔵省告示第41号)別表の番号1から20までに掲げる製造業の用に供する工場 【一般製造工場】 日本標準産業分類(平成19年総務省告示第618号)分類表中大分類E―製造業の項目に掲げる製造業の用に供する工場 【研究所等】 工業製品に係る研究所、バイオテクノロジーに係る研究所、光通信又は電気通信に係る研究所、ソフトウェアハウス、システムハウス、高度情報処理産業に係る事業所、高度な機械修理業に係る事業所、ディスプレイ業に係る事業所、非破壊検査業に係る事業所、デザイン業に係る事業所、機械設計業に係る事業所、エンジニアリング業に係る事業所等	【土地建物補助金】 土地固定資産評価額×3%+建物固定資産評価額×9%(限度額3億円) ※増設の場合は補助率、限度額ともに1/2 【人材確保奨励金】 市内に住民登録を有する新規常用雇用者1人当たり20万円(障害者の雇用については1人当たり40万円)(限度額なし)

本社、本社機能、中四国支店等への立地支援

岡山市本社・中四国支店等立地推進事業補助金

対象事業	補助内容
【本社】 企業の複数ある事業所のうち、最も経営上の業務が集中している、経営上の中心となる事業所で、初めて市内に設置するもの 【本社機能】 通常本社が有する総務、人事、経理、企画、研究開発部門等の中枢機能を有する事業所 【中四国支店等】 企業の複数ある事業所のうち、中国地方及び四国地方の4県以上を統括する業務を行う事業所又は中国地方及び四国地方の4県以上の広域的営業拠点機能を持った事業所	【賃借型】 事業所整備費(施設整備費、事務機器購入費)の1/2(限度額300万円) ※事務機器のリースは対象外 【人材確保奨励金】 新規常用雇用者1人当たり60万円(障害者の雇用については1人当たり120万円)(限度額なし)

ドンレミー岡山工場

農作物の生産技術と
物流インフラを活かした食品工場

先進施設

老舗洋菓子メーカーが
岡山市に進出

岡山市を縦貫する国道三〇号線を南下、産業が集積する藤田地区に向かった。このエリアには干拓による田畑が広がっていたが、近年になって国道沿いに企業が進出、工場や倉庫、事業所が数多く立地

している。

ここに一昨年六月に稼働を開始した洋菓子工場がある。株式会社ドンレミー岡山工場だ。創業は昭和二十六年、東京都足立区に本社を置き、群馬県高崎市の榛名工場を製造拠点として、全国のコンビニ、スーパーにケーキやデザートを提供してきた。二カ所目の工場



誰もが簡単な手続きで利用できる「ももちゃり」は、観光地、まち巡りの手段として好評だ。まちの賑わい創出に一役買っている。

上／回遊性向上社会実験時に行われたスタンプラリーのシート。
下／回遊性向上社会実験の様子。通りはオープンカフェとして、住民の方々に利用された。
(提供：岡山市)



創出や市民の高齢化対策も視野に入れている。六五歳以上の高齢者割合は増加傾向にあり、自動車を使わない市民の足として、利用しやすい公共交通の整備や、それらの利用を促す施策も課題になる。鉄道とバス、コミュニティサイクル「ももちゃり」など、有機的なネットワークの構築を急ぐ。特に中心市街地においては、車中心から、徒歩・自転車・公共交通中心の交通体系への転換を図り、賑わいの創出を目指している。

まちの二極化も大きな課題だと話すのは荒木昭彦課長代理だ。「都心部は岡山駅周辺と岡山城下の表町周辺に二極化しています。賑わいを取り戻すため両極を連携した回遊性の向上を目指しています」。その一環として五月に県庁通りやこれに連なる西川緑道公園筋で、安全で楽しいまち歩きを考える社会実験を行った。自転車の走行や駐輪の指導、車両等の通行を規制し、オープンカフェやイベントを展開、課題と可能性を探った。「道路や土地利用に資する貴重なデータを得ることができまし

た。これを交通戦略と賑わいの創出に活かしていきます」と荒木課長代理は語った。

岡山市内の道路は戦災復興を含め土地区画整理事業による整備が進められており、広々として視界がよく通る。渋滞とは無縁な印象もあるが、時間帯によっては中心部及びその周辺において渋滞が発生しているという。新たに駅前ショッピングモールが新店しており、通行量が増加してから手を打つのでは間に合わない。将来を見据えた都市整備、交通戦略が必要だ。「中心市街地では再開発事業やマンション建設が進み、現代的な街区が形成されつつありますが、エリアの歴史や風情のある街並みも残されている。そうした景観も街の魅力として大切にしながら整備を進めていきたいですね」と長代課長は抱負を語る。

まちづくりの担い手を
育む好循環を

若手の流出、まちづくりの担い手不足は岡山でも話題にあがるといふ。橋梁や公共施設の老朽化な

ど、次世代の暮らしに関わる課題が浮上する中、新たな価値観、視点を持つて取り組む施策が問われている。荒木課長代理は課題解決の糸口をこう語る。「やはり岡山の魅力を目に見える形で発信すること。担い手がいなければ理想的な都市計画の推進は困難です」。長代課長も「人材の確保、育成は建設業界と同様のテーマ。まちづくりと建設業の重要性をともにアピールしていきましょう」と言葉を継いだ。

企業が地方に進出し、まちに活力が生まれる。そこに人が留まり、労働力が集積すれば、企業にとってまちの魅力はさらに大きなものになる。この好循環を連鎖させることが地方創生の原点だろう。成功に導くのは地方行政とそこに根ざした企業の繊細かつエネルギーシユな行動力だ。



岡山市都市整備局
都市企画総務課
課長
長代利男
Toshio Nagayo



アウトレット店にはウィークデイの昼間にもかかわらず次々とお客さんが来店する。その数1日あたり約500名。休日は1,000名近くにもなる。甘い香りに包まれて店内に笑顔が広がる。



正面がアウトレットの店舗だが背景に工場のラインが連なる。清潔感に満ちたりゾート施設を彷彿とさせる佇まいだ。

について高島和男次長にお話を伺った。「これまで東日本を中心として全国に販売網を広げてきましたが、従来の体制では関西以南だと九州北部が限界でした。商圏を拡大し、西日本方面にも当社のスイーツをお届けするため岡山工場を新設したんです」。現在、鹿児島、沖縄まで供給できる体制を整えている。

新拠点に岡山を選んだ主な理由は、地震などの災害が少ない、西日本へのアクセス拠点、新鮮な原材料を入手しやすいといった点だ。ドンレミーの商圏は今や日本全国だ。そこで課題となるのが商品の配送スピード。岡山のアクセスの良さは出来立ての洋菓子を津津浦浦に届けるための大きな戦力となる。まさに岡山の優位性を最大限に活かす戦略だ。「榛名工場は東日本大震災の際に、計画停電や原



株式会社ドンレミー
岡山工場
次長

高島和男
Kazuo Takashima

材料の供給停止など大きな影響を受けました。岡山工場は有事の代替機能も担っています。岡山は台風の通り道からも外れていますしね」と高島次長は話す。原材料、資材は大阪エリアから調達している。短時間で搬送できる立地はコスト面でも効果が期待できる。高品質のフルーツが入手できることも大きい。ご当地スイーツの開発も進めている。「岡山は白桃の郷、ユニフォームもピンクで統一しています。かなりユニークですけどね」と笑った。

およそ三〇〇名の雇用を創出

ドンレミーが岡山市にもたらした経済効果も大きい。現在までに三〇〇名近い雇用を創出した。八割はパート従業員だが、女性の社会進出に貢献していることは間違いない。「最初は知名度がなかったのも、従業員を集めるのに苦労しましたが、クチコミが広がり、優秀な人材を確保することができました。平均年齢も若く、皆さん本当に元気で、工場内は活気があ

力を引き出したことになる。

地元で元氣と交流を生み出すスイーツ工場

ドンレミーが注目を集める理由の一つに工場に併設された「アウトレット」がある。ほんの少し形が崩れてしまったケーキや、ストックに余裕のある原材料を活用したパフェなどを店頭で安価で販売する。これまでに関東圏で四店舗を展開、岡山は五店舗目だ。「工場と併設したアウトレットは岡山が初めて。これ以上新鮮なスイーツを大量に提供できる場所は他にないでしょう」と胸を張るのは佐藤正義店長だ。開発部門も統括する佐藤店長は、地元の子供たちを対象としたケーキ教室も担当、毎回大人気だという。

「店の正面に小さいですけど多目的ホールをつくってお客様に開



株式会社ドンレミー
岡山工場
企画開発室 課長 兼
アウトレット岡山店 店長
佐藤正義
Masayoshi Satou

放しています。ケーキを食べながらくつろげるスペースとして好評です」と山下幸男主任が教えてください。山下主任は岡山の出身、地元で新しい交流の場ができたことも嬉しいと話す。

市内に進出した事業者からは、岡山の立地的な優位性を実感したという声が寄せられている。膨大なデータを扱うIT企業や通信事業者は地震などの災害の少なさ、大手ビールメーカーは原材料となる良質で豊富な「水」と高度な交通網。しかし、企業誘致における岡山市の優位性は、現段階で一〇〇％発揮されたとは言えない。それは依然として無限の可能性を秘めているということでもある。将来に向け遅く地方創生に挑む岡山市の取組みに期待したい。



大人気商品のプリンアラモードとフルーツロールケーキ (提供：㈱ドンレミー)



ドンレミー岡山工場内の様子。手作業で行うスイーツづくりには、多くの従業員が必要となってくる。(提供：㈱ドンレミー)

りますよ」と高島さんは明かす。

ドンレミーの洋菓子は工場ラインでの手作りが基本だ。見た目にも美味しそうなケーキ作りには繊細な手作業が求められる。そのため、工場が竣工した後、一カ月を研修期間にあて、本社から指導員を招聘してトレーニングを積んだ。さらに、製造後の出荷は時間を選ばない。出来立てを短時間で包装、運搬車両に積み込む。店頭での販売、接客を含め、潤沢なマンパワーがなければ、この工場の運営は難しい。それを支えているのが地元採用の従業員だ。ドンレミーの岡山進出は、市内の潜在的な労働